

平成29年度 第2回四万十町人づくり委員会 会議結果（要旨）

日時：平成29年12月19日（火） 14:00～16:10

場所：四万十町農村環境改善センター 大会議室

〔出席委員〕 川添節子、森本民之助、岡村健志、吉本悦子、新井みなみ、
門舛俊也、岡田光司、水間千津恵、中野千里

〔欠席委員〕 武政直人、林 伸一、小野川貴江

【会議次第】

1. 開会
2. 四万十町長挨拶
3. 委嘱状交付
4. 委員長・副委員長の選出
5. 議事
 - 1) 四万十町人づくり戦略について
 - 2) 平成29年度事業説明について
 - ・未来塾（四万十町高校応援大作戦他）
 - ・四万十塾（イノベーター養成講座他）
 - ・産業振興塾（農業者ネットワーク他）
 - 3) その他
6. 閉会

【会議結果】

（事務局）

四万十町人づくり員会にお集まりいただきありがとうございます。新しい委員長・副委員長が決まるまで、議事進行をさせていただきます。それでは、はじめに中尾四万十町長よりご挨拶を申し上げます。

（中尾町長）

日頃は人材育成推進センター業務、さらには町政全般にわたり、格別のご支援を賜りましたことを改めて感謝を申し上げます。

最近、「人づくり」という言葉が、皆さまを含め、町議会、さらには各会議で聞かれるようになり、非常にうれしく思う反面、責任の重大さを感じています。

今後は、人が地域をつくり、人の集合体が世界を支えるという事になっており、そこから外れないように、私の公約でも人材育成を掲げ、まちぐるみで人を作り、その人に町を支えてもらえる環境をつくりたいとの思いで、人材育成推進センターを立ち上げました。

今後は人づくり委員会に色々な協議・決定をしていただき、人材育成が少しでも町内の人々にご理解いただけたら、また違った形で発展すると思っています。

その中核となる人づくり委員会ですので、委員の皆様には様々な観点からの意見をいただき、私たちへの提案をお願いしたいと思います。

今後とも四万十町の町づくりに貢献いただきますよう、お願いを申し上げ、ご挨拶にさせていただきます。どうかよろしくお願ひします。

(委員・事務局 自己紹介)

(各委員に、町長より委嘱状の交付)

(事務局)

それでは、委員長と副委員長の選出です。人づくり委員会は委員の互選により委員長・副委員長を選出し、人づくり委員会の議事・運営を行っています。

この委員長と副委員長ですが、事務局提案にさせていただけたらと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(事務局)

ありがとうございます。それでは委員長には、窪川高校の森本校長先生、副委員長は高知大学の岡村先生でよろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(事務局)

それでは新任の挨拶をお願いします。

(森本委員長)

第1期に続きまして、第2期でも委員長をさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひします。

第1期の感想ですが、どちらかというところ「提供する側」「生産する側」から人づくりの話があったと思います。

第2期は、「消費する側」「生産したものを使う側」から人づくりを考えることも大事かなと。当然、良い消費者のもとに良い生産が生まれ、その生産と消費を繋ぐ役目、つまり販売や流通での視点の話があってもいいのかなと。

どちらかというところ第1期は「良いモノを作るために、どういった人が必要か」という話でしたが、今期は、享受する側から要望を出したら、当然その方も良い消費者にならなくてはいけないし、その本質の高い要望が質の高い生産を生んでいく、そういった繋がりでも人づくり委員会ができたと思います。

第2期はそういった視点でやっていけたらと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

(岡村副委員長)

私も前回に引き続き副委員長をさせていただくことになりました。高知大学は四万十町とは包括協定を結んでいまして、様々な連携事業をしています。学生や私ども教員もお世話になっているところです。

皆さまの意見もいただきながら、大学として出来る事を日々考えていきたいと思っています。私の役目は、委員長をサポートさせていただき、今期もご一緒させていただけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

(森本委員長)

それでは、議事に従いまして、四万十町の人づくり戦略について、担当事務局より説明をします。事務局、よろしくお願ひします。

(事務局)

事務局説明 四万十町人づくり戦略について (資料P3)

(森本委員長)

この人づくり戦略に基づいて、事務局より説明をしました。

平成27年度末に四万十町の人づくり戦略を、町長に提言し、これに基づき計画を立て、平成28年度には、未来塾が先行して動き出しましたが、実質的には本年度から全てが動き出しました。それでは、次の未来塾に移ります。事務局は説明をお願ひします。

(事務局)

事務局説明 未来塾の事業説明 (資料P4～P6)

(森本委員長)

具体の事業の説明でした。何か質問はありませんか。現役の保護者である新井委員はいかがでしょうか。

(新井委員)

(町営塾「じゅうく。」を運営している) FoundingBase のスタッフは、「じゅうく。」として雇用していますか。それとも未来塾として雇用しているのでしょうか。

(事務局)

「じゅうく。」のスタッフとしてです。FoundingBase から3名が出向しており、残り4名は地域おこし協力隊の身分で従事しています。

(新井委員)

小学校等に来る場合は、その(協力隊の)4名が来るようになりますか。

(事務局)

小中学校に行く場合は、7名の内からになりますが、まだ行く時間の余裕がないのが現状です。

(新井委員)

塾長に小学校にも来て欲しいとお願いをしましたが、自分は高校担当なので高校に力を入れたいと言われたので、「じゅうく。」に力を入れているのかなど。小学校に呼ぶとしたら違う組織から呼ぶしかないのかなど。

(事務局)

「じゅうく。」も始まってまだ1年で、これまで体制づくりがメインでもありました。そのため、塾長はその部分を強調して伝えたと思います。ただ、時間的な問題が1番の課題です。

(森本委員長)

保護者視点での意見だったと思います。敢えて客観的な立場からいうと、高校生対象の「じゅうく。」に縛らなくても、別の力のある方がいたら、そういう事業展開も可能ですよね。先ほど町長も言ったように、予算が伴う部分でもあるし、今の発言は(事務局も)記録をしていると思います。

(休憩)

(森本委員長)

それでは再開します。続いて、四万十塾の説明を受けます。事務局よろしくお願ひします。

(事務局)

事務局説明 四万十塾の事業説明 (資料P 7～P 11)

(森本委員長)

四万十塾の説明でした。質問はありませんか。

門舛委員、四万十ビジネスプランコンテストの共催として高知銀行が入っていますが、金融の立場から意見をいただけたら。

(門舛委員)

事前に町から説明を受けていますが、四万十町内で元気な産業や事業者が生まれてきたらいいというのが銀行としての目線です。

それについて、ビジネスプランコンテストは、我々と合致していると思ったので、本部にもコンテストを詳しく説明をしています。

本部でも協力する事が正式に決まっていますので、可能な限り町の施策に参加し、1件でも多く実現可能なビジネスを生み出していきたいと考えています。

また、イノベーター養成講座・ビジネスプランコンテスト・高知大学との連携事業、その他四万十塾の人材育成事業が少なからずリンクしていると非常に興味をもっていて、ぜひ成功させ、一つでも多く力になればと考えています。

(森本委員長)

それぞれの施策が繋がっていることが魅力的ということですね。とても素晴らしいと思います。他に質問はありませんか。吉本委員。

(吉本委員)

JA四万十や社会福祉協議会との連携はどうですか。事業が始まったばかりですが、町は町、JAはJAではなく連携することが必要かと。例えば、先日「四万十ふくふくまつり」がありましたが、(以前にも)この取り組みはありましたかと社会福祉協議会の方に聞くと、名称や時期等も違うが、福祉に関係する人だけのお祭りだったと。今回のような形で開催すると、今まで福祉に関心のなかった人も来やすく、良いイベントだと思いました。その件も含め、今後も連携が大事だと思いました。

(森本委員長)

この話は、事務局も身に染みていると思います。新しい企画をやっていくと前からやってるものと重なって競合関係となり、調子の悪い事になる。ここは言われるように連携を考えないと物理的にも空間的にも、それから人数的にも限られた地域で、事業の奪い合いを危惧する事だと思います。

ただ、最初のきっかけとして、形のないものを融合する事は難しいので、1回企画をし、後で連携・融合していく事は必要ではないかと思います。

自分の想いだけでバラバラに展開していくより、全体で協議する事が必要だと思いますし、それはこの会でも意見すれば、町の施策に反映されると思います。

(吉本委員)

それともう1点、先ほど予算の話もありましたが、ふるさと納税が四万十町は高知県で2番目という事を伺いました。その使い道は限られていますか。

(事務局)

ふるさと納税は、この分野に使ってくださいと指定されている場合もありますが、町では、人材育成事業費の大部分にふるさと納税を活用させていただいています。

また、交流・連携については、事業を進める上で大事にしている部分で、他の事業と重ならないよう、さび分け・すみ分けをする事をセンター内でも話をしています。

また、四万十塾では、商工会の創業支援担当者と連携して事業展開をしていますし、農協・社会福祉協議会については、産業振興塾と連携している部分もあります。

(森本委員長)

最初からは難しいと思いますが、意識としては競合しないようにしていると。最初は重なる事があるかもしれないが、それは調整していく意識があるという答えでしたので、信用して頑張ってくださいと思います。川添委員。

(川添委員)

小学生が「手仕事市」や「わいわい広場」に出店・出品をしています。自分たちや四万十町を売り出すために、色々な勉強をしています。その中で、色々な事を知ります。アピールの仕方とか値段のつけ方、材料をどこから仕入れるか等を勉強して、教師も手に負えないくらいどんどん広がっていて、良い勉強だと思っています。先ほどの起業支援も良いなと感じ、これに未来塾の探究型授業で、四万十塾へのアイデアを出せて、塾同士がリンクするところもあったら良いかと。小学生も、やがて窪中・窪高に行き、「じゅうく。」に入ってチャレンジするような子も育てているので、塾同士がリンクできれば良いなと思いました。

(森本委員長)

成長の過程での繋がり意識して、というご意見だと思いますが。

(事務局)

まず四万十塾からお答えしますが、ビジネスプランコンテストについては、高校生、特に「じゅうく。」の通塾生は、是非見に来てもらいたいと思っています。それを見て、私もやってみたい、応募してみたいと思う生徒が1人でも出てきたらと思っています。

(森本委員長)

それでは未来塾もお願いします。

(事務局)

今年度のイノベーター養成講座に、塾のスタッフも参加しており、それをきっかけに「じゅうく。」の子どもたちもそうなったらいいなと思っています。また、最近「じゅうく。」もマイプロジェクトといった形で、自分のやりたい事をまとめていたり、やり始めていますので、それが発展的にビジコンに繋がっていただければと思っています。

(森本委員長)

それでは、後で全体の質問時間も取りますので、次に移ります。続いては、産業振興塾の方を事務局お願いします。

(事務局)

事務局説明 産業振興塾の事業説明 (資料P12～P14)

(森本委員長)

何かご意見ご質問等ありますか。

中野委員、四万十ドラマは情報発信が上手な印象を持っています。特にHPは、次々クリックしたくなり、とても惹きつけられるのですが、情報発信という部分で何かご意見はありませんか。

(中野委員)

FacebookのようなSNSを使った情報発信には力を入れています。HPでも最終的には商品を販売する事が目的ですが、ここで作られた物を販売するにあたって、その背景や地域を知ってもらい、共感した上で買っていただいています。

発信するにあたり、職員が現場に行って一緒に畑作業をしたり、見えた事や想いや感じた事を HP に書いたり、メルマガで打ったりしていますが、反響も多く、職員自身も自分が知って伝える事の大切さを感じているようです。ただ、できるだけ期間を空けずに小まめに発信する事が大事だと思います。

(森本委員長)

何気ない言葉にヒントもあったと思いますけど、物を買うのに安ければいいとか楽に買えたらいいとかいう時代ですが、その物の実態を知ってもらい買ってもらう。その価値を SNS で発信しているのかなど。この事によって消費者のレベルが高くなり、販売する側のレベルも高くなるという好循環を生み出しているような気がします。貴重な意見ありがとうございます。他に質問はありませんか。

それでは、全てについて質問を受けるようにします。はい、新井委員。

(新井委員)

探究学習は、小学生に有効な勉強法だと思います。小学生で、その勉強法を習っていると中学・高校になっても深く自分で掘り下げることができると思うので、ぜひ小学校に来て欲しいと思っています。

予算も考えていると言われたので、その分も組み込んでもらえないかと思っています。今、自分の子ども達に探究学習をさせたいと思い、自分自身も勉強していますが、四国で特化してやっている所がなく、勉強しに行くにも東京まで行かなければなりません。ただ、四国でやっていないのなら四万十町でやったら魅力になると思います。この探究学習の成果が出たら町への移住者も多くなると思いますので、ぜひお願いします。

(森本委員長)

今、人材育成推進センターで取り組んでいます。教育委員会の方とも繋がりますよね。

(事務局)

しかし、(小学校で探究学習を行う事は)断言はできません。スタッフと教育委員会は小中学校でも進めていきたいと話していますが、スタッフの物理的な部分で出向いていけません。

これまで探究学習を実施した中学校は2校あり、残り3校でも3月までに実施したいと考えています。できれば小学校の中学年にこの学習を薦められたらという話していますが、すぐに期待には応えられないのが現状です。

(新井委員)

高知大学と連携しているので、大学生を呼んでくるのはどうですか。

(事務局)

スタッフでもプランを練っているところですが、まだ具体的になっていません。ただ、外部との連携も町内の小学校や保育園、幼児まで視野には入れていますので今しばらくお待ちください。

(森本委員長)

新井委員の保護者としての受益者側の質の高いご意見ですので、ぜひ真摯に受け取って対応していただけたらと思います。

四万十塾では、高知大学との連携をしていますが、岡村委員が高知大学から来ていますので、少しお話をしていただけたら。

(岡村副委員長)

教育の専門家ではないですけど、受動的な学習スタイルから能動的な学習スタイルへのシフトチェンジは、大学内部でもドラスティックに起こっています。私ども教員が高校に出かけ、探究学習のプログラムを行う事も増えています。これは以前からの高大連携のプログラムですけど、四万十市とは、行政的な制度設計ではなく、もう少しフランクな活動として始まっています。例えば中村高校の課題探究学習のプログラム設計に私ども教員が入ったりとか、一部、先生にレクをしたりとか、生徒に対してちょっとしたウォーミングアップをやったりしています。

要調整の上ですが、四万十市では課題探究学習のトレンドとか、市内でどんなことをやっていてどんな意義があるのか等を、出前公開講座でやった事もあります。

これは、保護者の方かもしれないし、先生方もかもしれませんが、課題探究学習は体験する事が一番なので、子どもと一緒にやるのも良いかと。ただ、先生方はすごくジレンマがあると思います。今までは正解を教えていたのが、正解のない世界に行き、子どもの成長を見守る世界に入っていくので色々あるかと思いますが、色々な場面で体験できる場があることは素敵だと思います。

(新井委員)

先生もですけど、親も多分ついていけないと思います。

(岡村副委員長)

そうでしょうね。僕も親なんですけど、それは違いうだろうとやっぱり言いたくなります。

(新井委員)

親が子どもとどう向き合ったら良いかという講座もありがたいし、先生も親と一緒に勉強した方が共有感を持ってやれるという感じはすごくあります。探究学習と言っているのは私の周りの親だけで、他の保護者はそれを気にしたことがない方が多いと思うし、知らない方が多いと思いますので、高知大の先生とか勉強されている方が来て、お話されるのが良いきっかけになるとと思いますので、是非。

(岡村副委員長)

大学としても、それをやると大学への進学意欲の向上になるかもしれませんので、色々とやれるのではないかと思います。

(新井委員)

先ほど中学校で探究学習をやられたと言われていましたが、手ごたえとしてはどうでしたか。

(事務局)

学校によって少し違いますけど、どちらも好評でした。うちのスタッフにとっても良かったし、学校長からも好評でした。「じゅうく。」のスタッフは、若くて他県から来ています。これは関係性の問題で、教師と生徒、教師と児童という縦の関係性ではなく、また友だち同士という横の関係でもなく、いとこのお兄ちゃんお姉ちゃんのような斜めの関係性のスタッフを設計しているので、いつもと違った雰囲気でもやることも生徒には好評だったかと思います。ただ、1回やったから探究に繋がるといった事ではないし、「じゅうく。」としても、少しずつ積み上げていき、できれば何回か定期的に入りたいと考えているところです。

(新井委員)

うちの息子が「じゅうく。」フェスタで、高校生の科学実験を見たり、お兄ちゃん達と話す機会が印象に残って良かったようで、家に帰っても話していました。そういった高校生との機会もあって良いと思いました。

ただ、他の保護者は探究学習にフォーカスしていない方が多く、求めているのは受験勉強とかで「じゅうく。」に求めているのはそっちじゃないのかなと。

「じゅうく。」は、探究学習を打ち出したいと思っていますが、需要はそっちにあるのかなと疑問に思ったりもします。オープンキャンパスにも結構な人数が参加されていましたが、大学等に進学したい方が多いのかなと。そういったフォローは「じゅうく。」としてどうされていますか。

(事務局)

「じゅうく。」では、探究学習も一つのメインですが、基礎的な学力・知識をないがしろにしている訳ではありません。

学力をつける事は、小学校・中学校・高校ともに高知県の大きな教育課題ですので、ドリルとかもやっていますし、学校の授業でしっかり学べる支援もやっています。

ただ、近くに大学生や大学もないといった時に、その環境の中で大学に行こうと言っても、自身のモチベーションよりも良い仕事に就けるから行こうとなってしまうのではないかと思っています。

そうではなくて、自分自身が面白そうだな、こういう場所で学べたら良いなと言った所を一人でも二人でも気づいてもらえればと思っています。あるいは、大学に進学しなくても、こういう時間の過ごし方がある事を知るだけでも良いし、少し視野が広がっていくのかなと人材育成推進センターでは話しているところです。

例えば、農業に就くと決めていたとしても、今までの農業もこれからの農業も学ばなければ成り立っていかないと思います。

実際、農業をやっている方は、(産業振興塾で) 色々なやり方や考え方もあるという事を知るネットワークもやっているところです。今の子ども達が農家になっても、学びは大事だと考えるきっかけになればと思っていますので、基礎学力をないがしろにしている訳ではないです。

(新井委員)

わかりました。

(森本委員長)

その他で色々あると思いますが、それは次の会までに情報収集をしてもらえばより良い発言になるかと思っています。岡村委員、どうぞ。

(岡村副委員長)

受講者とかテーマとかの情報が集まってきていると思います。それらをどう活用するかという事は、今後、検討しても良いと思います。事業をやっていくと情報が蓄えられますが、それを年度ごとに捨てるのは若干もったいないかなと思います。

(森本委員長)

情報活用についての意見をいただきました。それでは、議事の2番は、これで終わりにしますので、個別に質問があれば事務局に直接お願いします。

それでは、議題3番のその他で、今後の日程の説明を事務局お願いします。

(事務局)

今後のスケジュールですが、3月ごろにもう一度開催したいと考えています。

現在、来年度当初予算の編成をしていますので、その予算が決定する3月議会の前後に案内をする予定ですので、ご参加をお願いします。

(森本委員長)

本年度は、平成30年3月までにもう1回開催し、平成30年度は、年度3回くらいを予定しているという事ですので、よろしくをお願いします。

以上で会を閉じます。どうもありがとうございました。

— 16時10分 終了 —